



# Grand Seiko Story 3

## 美しさ

### 紳士の装いに受け継がれる“美しさ”

服飾史家・中野香織さん

イタリアの上流階級の男性には、15世紀から連綿と受け継がれてきた装いや振る舞いの基準がある。「スプレッツァトゥーラ」と呼ばれる、さりげなさである。一見、飾らないように見えるその品のよさは、多大な努力や観察や行動の研磨に裏打ちされている。また、19世紀初頭のイギリスの元祖ダンディ、ポー・ブランメルは現在の紳士服に通底する美意識を確立した男だが、「通りを歩いていて、人が振り返ったら、装いは失敗だ」という言葉を遺す。服装の印象すら残さないさりげなさを完璧に実現するため、時に2時間以上かけてネッククロスを結んだという。

日本の紳士は、装道においても年季を積んだイラストレーターの穂積和夫が「ぎんぎんの粋よりも

山の手野暮がいい」と語るように、粋に見せる術を知りながらもあえてそれを避けるべく、一手間を重ねたり省いたりする。慎みと恥じらいの美学がそこにある。

こうした例から、時代や地域を超えて貫かれるタイムレスな紳士の美意識が抽出できる。それは、努力や技術や知識に支えられながらもそれらを感じさせない、奥行きと実のある美しさである。そのレベルを深めるべく静かに挑み続ける紳士は、自らを強く主張せずとも際立ち、同胞を引きつけていく。光と陰から成る日本的な美を高度な技術で表現するグランドセイコーも、その陰影が醸し出す威厳によって逆に輝きを増し、グローバルに通用する紳士にふさわしい名品の地位を獲得している。

高性能とデザイン美の追求こそが、グランドセイコーという存在を際立たせている

Grand Seiko SBGJ203

[9Sメカニカルハイビート36000 GMT]

「儼然と輝く時計」を現代的に解釈した歪みのない鏡面仕上げを多用。ムーブメントは、グランドセイコーが41年ぶりに秒間10振動ムーブメントに挑戦し、復活させたメカニカルハイビート36000をベースにGMT機能を付加したCal.9S86を搭載。GMTの文字と24時間針を赤字で統一し、機能とデザイン美を両立。自動巻き。ステンレススチールケース。ケース径40mm。マスターショップ限定モデル。67万円

Profile

服飾史家。明治大学国際学部特任教授。男女ファッション史から最新モードまで取材、研究、執筆、講演をおこなう。『紳士の名品50』（小学館刊）ではグランドセイコーもとりあげている。http://www.kaori-nakano.com